

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
VHF帯加入者系無線システム作業班(第1回) 議事概要**

1 日時

令和元年9月9日(月) 14:00～15:10

2 場所

経済産業省別館 11階 1111会議室

3 出席者(敬称略)

主 任:前原 文明

構 成 員:相沢 素也、池田 正、石垣 悟(代理)、小竹 信幸、加藤 数衛、
川瀬 克行、椎木 裕文、仲田 樹広、濱中 太郎、古川 昌一、
宮城 利文、吉岡 正文

事務局(総務省):熊谷 基幹通信室長、棚田 課長補佐、福川 第一マイクロ通信係長

4 配布資料

VHF作1-1 VHF帯加入者系無線システム作業班運営方針

VHF作1-2 VHF帯加入者系デジタル無線システムの周波数共用に関する報告

VHF作参1-1 陸上無線通信委員会資料

「業務用陸上無線通信の高度化等に関する技術的条件」のうち「VHF帯加入者系無線システムの高度化に係る技術的条件」の検討開始について

VHF作参1-2 陸上無線通信委員会資料

「VHF帯加入者系無線システムの高度化に係る技術的条件」に関する検討の進め方

VHF作参1-3 報道発表資料

「VHF帯加入者系無線システムの高度化に係る技術的条件」についての関係者からの意見聴取

VHF作参1-4 周波数割当計画(抜粋)

5 議事概要

(1) 開会

(2) 総務省挨拶

(3) 作業班主任挨拶

(4) 作業班構成員の紹介

(5) 議事

① VHF帯加入者系無線システムの高度化に係る技術的条件の検討開始について事務局が資料「VHF作参1-1」「VHF作参1-2」「VHF作参1-3」に基づき説明を行った他、NTTから補足説明がなされた。

② VHF帯加入者系無線システム作業班運営方針について事務局が資料「VHF作1-1」に基づき説明を行った。

③ 周波数の共用検討について

○ 周波数共用に関する報告

ARIBが資料「VHF作1-2」に基づき説明を行った。質疑等は以下のとおり。

小竹構成員：二波モデルで検討しているが、これは見通しの検討と限って良いのか？山岳でナイフエッジがあった場合の検討はさらに行うのか。

吉岡構成員：本検討は最悪条件での検討であり、山があれば、伝搬損失が大きくなることから、より共用しやすくなる。このため、本検討で十分と考えている。

小竹構成員：了解した。

椎木構成員：過去の干渉において、占有周波数帯幅は重複しないが、防災行政無線が放送のSTL/TTLに干渉を与える障害の発生があったと聞いている。原因としてSTL/TTLの受信フィルタの帯域が広く、送信100kHzに対し受信300、400kHz等装置で異なり曖昧と聞いているが、これはその点を検討されているか。

吉岡構成員：VHF作1-2の3ページ目をご確認頂きたい。この受信帯域5パターンは信越総通局の調査検討において把握できた受信フィルタの値であり、市場にある装置を反映出来ていると考えられる。これより、本報告では641kHzまで検討し、その結果を報告している。

椎木構成員：考慮されているとのこと、了解した。

前原主任：本報告は、最悪値で検討されているということ。
一点確認したい。VHF帯加入者無線システムの「親局」「子局」とは、空中線の高さの違いのみか。

吉岡構成員：その通りである。

○ 今後共用検討を行う必要があるシステム

事務局が資料「VHF作参1-4」に基づき、今後共用検討を行うシステム（公共・一般業務用の固定局、現行のVHF帯加入者系無線システム（アナログ）等）について報告。次回以降の作業班で検討予定。

④ その他

事務局が資料「VHF作参1-2」に基づき今後の作業班の開催予定について説明を行った。

(6) 閉会